



11月園だより

2020年11月
尚徳福祉会
沼袋西保育園

朝晩の温度差が大きくなり、落ち葉の舞う季節となりました。子ども達はタイヤの山によじ登ったり、コンテナを並べて電車ごっこをしたり元気いっぱい戸外で遊んでいます。公園に出かけると落ち葉やどんぐりをたくさん集め「おみやげにする!」と嬉しそうに見せてくれます。

10月の運動会は子ども達と職員で行いました。普段通り、といってもやはり緊張感を持って取り組むゆり組さん、逆に大人の目が少ないことで練習通りのひまわり、ちゅうりっぷ組さんでした。子ども達が「やりたい」と考えた競技だけあって、みんな楽しんで行うことができました。沼袋西保育園の行事は「見せるため」ではなく、共に楽しむためのものとして取り組んでいます。日本の保育は「行事保育」といわれ行事に合わせて保育が組まれていることが多く、得られることもある一方大人の熱意が子どもを追い越してしまい「やらせる」ものになっていきます。「誰のため」「なんのため」の行事なのか一生懸命に練習させるうちにわからなくなることもしばしばです。沼袋西保育園の保育は「子ども中心」です。こども自らに育つ力があるからです。大人はサポート役にすぎません。発表会も日常生活の延長線上にとらえ「見せるために」「やらせる」のではないものにしたいと思い、取り組んでいます。子どもの満足は大人が思うよりもっとシンプルです。アイデアもやわらかいものです。それをみんなで話し合い、やってみて、決めていきます。本番その日の結果が大事なのではなく、日々どのように過ごし取り組んできたか、その過程を大事にします。当園の趣旨をご理解いただき子ども達の姿を応援していただければと思います。



☆11月の予定☆

- 5日(木) 避難訓練
- 6日(金) 歯科健診 9:30~
- 10日(火) 幼児身体計測
- 11日(水) 乳児身体計測

※9日・16日・30日の各月曜日、英語であそぼう

☆12月の主な予定☆

- 2日(水) 避難訓練
- 8日(火) 幼児身体計測
- 9日(水) 乳児身体計測
- 10日(木) 総練習(2・4歳)
- 11日(金) 総練習(3・5歳)
- 15日(火) 発表会(2・4歳)
- 16日(水) 発表会(3・5歳)
- 23日(水) もちつき会

※7日・14日・21日の各月曜日、英語であそぼう

☆お知らせ・お願い☆

○11月1日より新しいお友だち2名が仲間入りします。
・ひよこ組(0歳) さん
・ちゅうりっぷ組(3歳) さん
どうぞよろしくお願ひいたします!

○日頃から感染予防にご協力いただき、誠にありがとうございます。都内の新型コロナウイルス陽性者が増えました。引き続きマスクの着用、手指消毒、検温、体調管理をよろしくお願ひいたします。また、園内での滞在時間の短縮にご協力いただきお迎え後は速やかに降園をお願ひいたします。

○子どもの飛び出し防止と危機管理の観点から事務所前に設置してありますスチールの扉・階段上の扉を常に閉めております。ご負担をおかけいたしますが、子どもの安全のため、閉めていただきますようよろしくお願いいたします。

○延長保育利用料・写真代等お支払い方法の変更をご希望の方は月末までに事務所までお知らせ下さい。又、PayPay/AirPayでのお支払い対応は事務員、園長、主任のみの対応となります。1日~10日の間に必ず請求書をお持ちの上、朝8時15分~夕方6時15分までにお越しいただきますようお願いいたします。

○2019年度の決算報告書を絵本棚の上に準備しました。園内でご自由にご覧ください。

○お休みする場合、朝9時30分頃までに連絡をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

語り聞かせ・読み聞かせ

主婦の友社 0~3才 個性を伸ばす 能力を育てる
著者 汐見 稔幸 氏



お話の楽しさを 体験させてあげて

子どもの心を育てる特効薬のようなものはありませんが、お母さんやお父さんにたっぷりとお話を聞かせてもらった子どもは、豊かな想像力を持った子に育つように思います。ただお話をしただけでもいいし、適なお話が思い浮かばなければ、絵本などを見ながらの読み聞かせでもいいでしょう。

お話の世界は実際にはないような体験をさせてくれるので、子どもの心に強い印象を残します。子どもは親が考えている以上に、いろいろな体験をしていますから、0才でも十分にお話の世界を楽しめます。

子どもの心の中のものもやもやを吹き飛ばしてくれるような、最後には美しいものや正しいものが勝つといった内容がいいと思います。子どもは、楽しくてしかたがないという表情でくはずです。

毎日の習慣にしてしまおう

語り聞かせ・読み聞かせは大きくなってから急にやろうとしても、子どもの側が「いいよ、そんなの」と乗ってこないということになりがちです。小さいころからの習慣にして、毎日続けるとよいでしょう。時間を決めて、たとえば就寝前などにいつも楽しいお話が聞けるとするのは、子どもにとってもわくわくするほど楽しみなものです。

語り聞かせ・読み聞かせは、文化を仲立ちにして、さりげなく親の気持ちを伝えることにもなりますし、親子の心のつながりを絶えず再確認することもできます。

お母さんが聞かせてあげるのはもちろんですが、お父さんのゆったりしたひざの上で聞くお話は、また違った体験でいい思い出になると思います。



実用的な効果は期待しないで

毎日本を読んであげているのだから、そろそろ文字を覚えたかしらといったような実際的な効果を期待すると、長続きしないかもしれません。聞いている態度を評価しないでください。子どもはそれぞれのやり方でお話の世界を楽しめればいいのですから。

語り聞かせ・読み聞かせというのは、子どもに何かをしてやろうという功利的な目的ではなく、生命維持のためでもなく、ほんとうに心と心のつながりを求める行為です。

その結果、親子のつながりはいっそう強まり、子どもは、とても安心していきいけるようになるのです。

できれば、赤ちゃん時代から、少年期を脱するころまで続けてあげたいものです。

どんな本を選んだらいいの?

絵本を読み聞かせる場合、本の内容は、子どもが興味を持つものならそれほど神経質になる必要はないでしょう。

初期の0~1才半のころは、自分の知っているものを再現する、カタログ的なものも絶対必要です。「どうぶつ」「のりもの」「やおやさん」など、子どものふだんの生活に登場するものを本の中に発見すると、赤ちゃんは大喜びします。いっしょに本屋さんに行って選ぶとよいでしょう。

友人の子どもが使ったものを譲ってもらったり、図書館を利用することもたいせつです。図書館でまず借りてきて、子どもに読み聞かせてやるとたいへん喜んだという本を、今度は本屋さんで買ってやるという手もあります。ときにはあまりお金を惜しまないことも必要でしょう。

子どもによって好きな本はそれぞれ違いますから、親が強制することのないように。また、次々と新しい本に興味の移る子、何回でも同じ本を読んでもらいたがる子などいろいろなタイプがあるので、それぞれの個性を尊重してやりましょう。

いずれにしても、子どもが生き生きとした表情で、集中して聞いていることが大事です。